平成２８年　１０月市長定例記者会見

日　　　時：平成２８年９月２９日（木）午後１時～２時
場　　　所：射水市役所３０２会議室
報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞、北日本放送、富山テレビ、射水ＣＡＴＶ、エフエムいみず、庄東タイムス
当局出席者：市長、市長政策室長、行政管理部長、市長政策室次長、総務課長、消防本部 防災課長、都市計画課長、政策推進課 秘書係長、まちづくり課長(司会)

○質疑応答の概要

Q1.　９月３０日には新庁舎の消防訓練があるが、スムーズな行政運営を図るための開庁前後での具体的な取組があれば教えてほしい。

A1.　スムーズに業務が移行できるように、窓口を行う市民課は先行的に新庁舎へ移転し、窓口対応のスキルアップに取り組んでいる。引っ越しをした後も市民サービスに支障の無いように、一層レベルアップできるように取り組んでいくこととしている。（市長）

Q2-1.　これまでの分庁舎形式が解消されることにより、１０月１１日以降一日に何人の来庁を見込んでいるか教えてほしい。

A2-1.　正確な把握はしていない。それぞれの地域に地区センターを設置することにしているので、どれくらいの方が地区センターや新庁舎に来られるかは予想しきれないところもあるが、支障が無いようにしっかり対応していくよう努めたい。（市長）

Q2-2.　窓口対応のスキルアップとは何か研修などを行っているのか。

A2-2.　実際にこの場所で業務を行うに当たってのシミュレーションやシステムを活用したサービスの対応などを繰り返し行い、待たせない、手間取らないといった窓口対応のテーマの習熟度を高めている。（市長）

Q3.　新しい庁舎ができたことに対する市長の思いを聞かせてほしい。

A3.　全国的にさまざまな自然災害が発生している中で、行政として市民の生命や財産をしっかり守り、安全安心を確保するという重要な役割を果たすという意味合いからも、災害拠点として免震構造やデジタル防災行政無線などの機能を盛り込んでいる。拠点となる庁舎が完成したという事に

ついて心強さも感じている。あわせて、1 庁舎 2 分庁舎で行政効率も向上させなくてはならない。市民に対してきめ細やかなサービスの提供に努めなくてはならないと考えている。整備に当たってはいろいろなことがあった。合併当初からの大きな課題の一つでもあった。そのような中で改めて庁舎はどうあるべきなのかを検討や議論を行い、そうした中でいろいろなご提案やご意見をいただき、この度の完成に至った。この完成した庁舎を生かし、射水市政や市民の幸せがさらに一層発展するように市民一丸となって力をあわせ取り組んでいきたいという決意を新たにさせていただいた。（市長）

Q4-1.　小杉庁舎の跡地について現状を教えてほしい。
A4-1.　3 月からプロポーザル形式で提案を受け付け、１件の提案があった。それについて選考委員会で提案内容について選考していただいた。そしてその答申を受けて検討させていただき、今後片山学園を優先交渉事業者に位置付けさせていただいて、お互いの合意を目指して細部を詰めていくといった段階である。（市長）

Q4-2.　時期はどうなるのか。
A4-2.　まずは協議を重ねて合意を得ることが大事だと考えている。時期として設定はしていないが、協議の進み方では早ければ年内もあるかもしれない。これは進捗の状況によると考えている。しっかり内容を詰めて進めていきたい。（市長）